

企業に求められる情報開示への対応と 持続可能な木材調達の取り組み

清水建設株式会社
環境経営推進室 グリーンインフラ推進部

2026-01-15

目次

1. 自己紹介
2. TNFDによる情報開示の意味合い
3. コンクリート型枠合板の取組
4. おわりに

緑化試験の調査



採集種子の果肉除去



ダム湖の水没林調査



斜面の樹木根系調査





DNP 市谷の杜



震災復旧植林

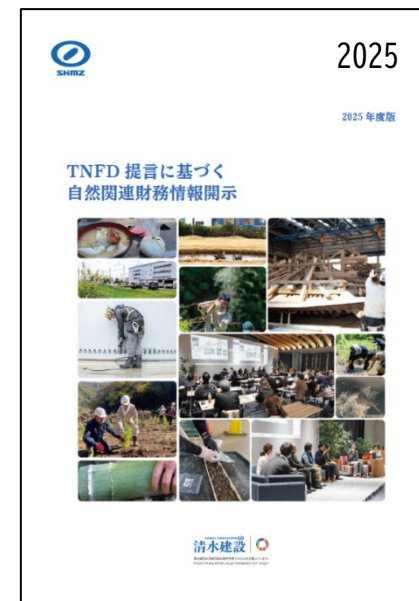


お花畑（晴海トリトン）

2. TNFDによる情報開示の意味合い



ネイチャーポジティブへ

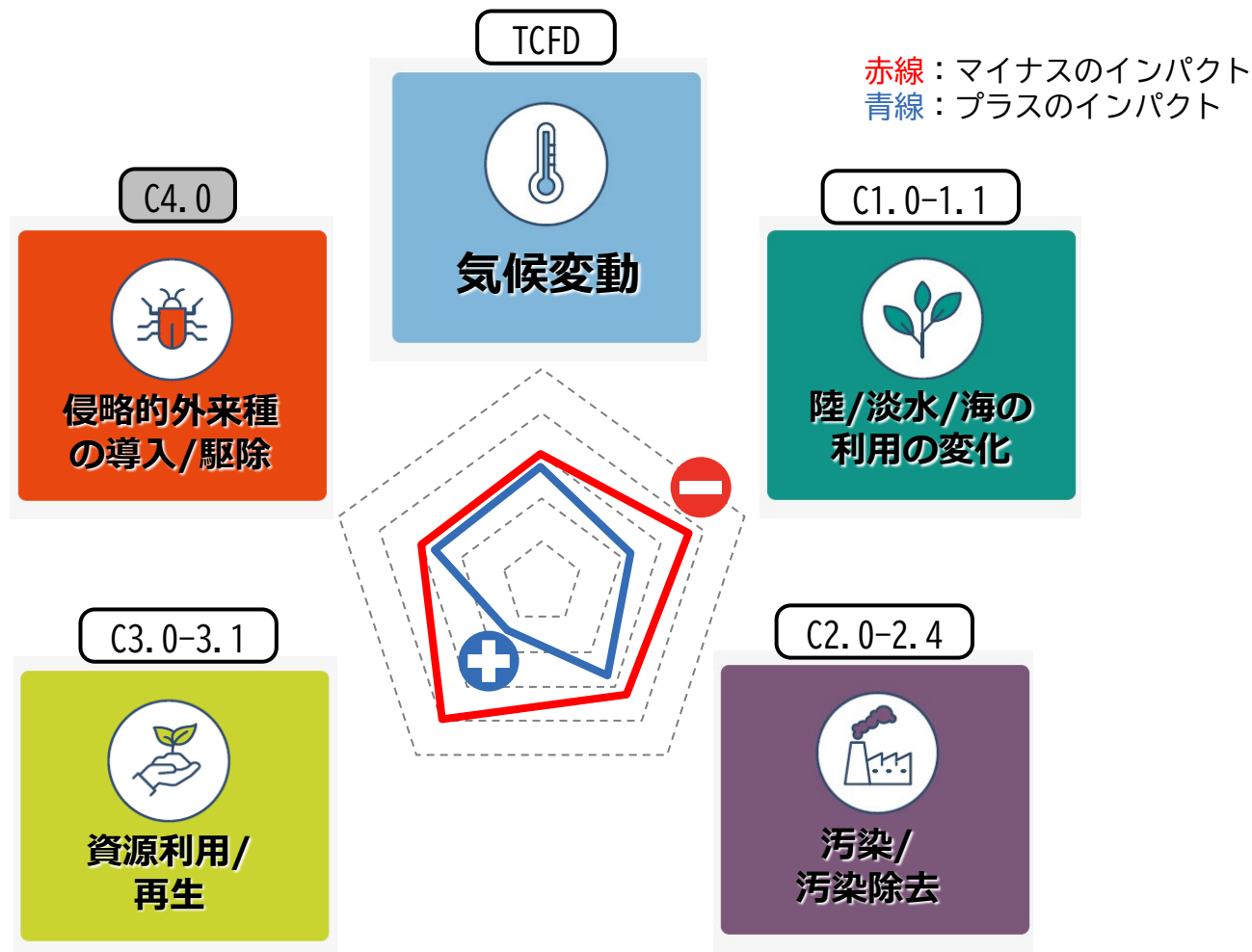


→これを毎年継続することの意味・・・

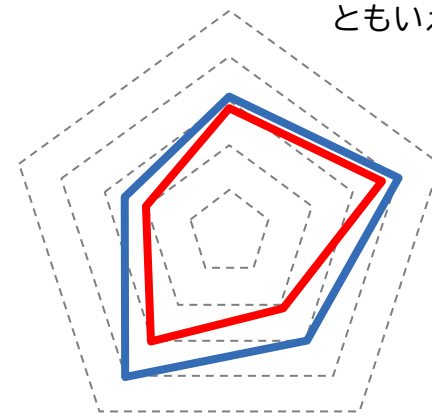
グローバルコア指標による『健康診断』

グローバルコア指標による『健康診断』

インパクトドライバーであるC4.0までを対象
(C5.0 自然の状態は別途)



ネイチャーポジティブとは、
「赤線を青線が上回っている状態」
ともいえる？



『健康診断』で分かること（3段階）

①自社内での優先順位づけ



自己分析による**重要課題の特定**
複雑な自然課題への取りかかり

②同じ業界内での比較



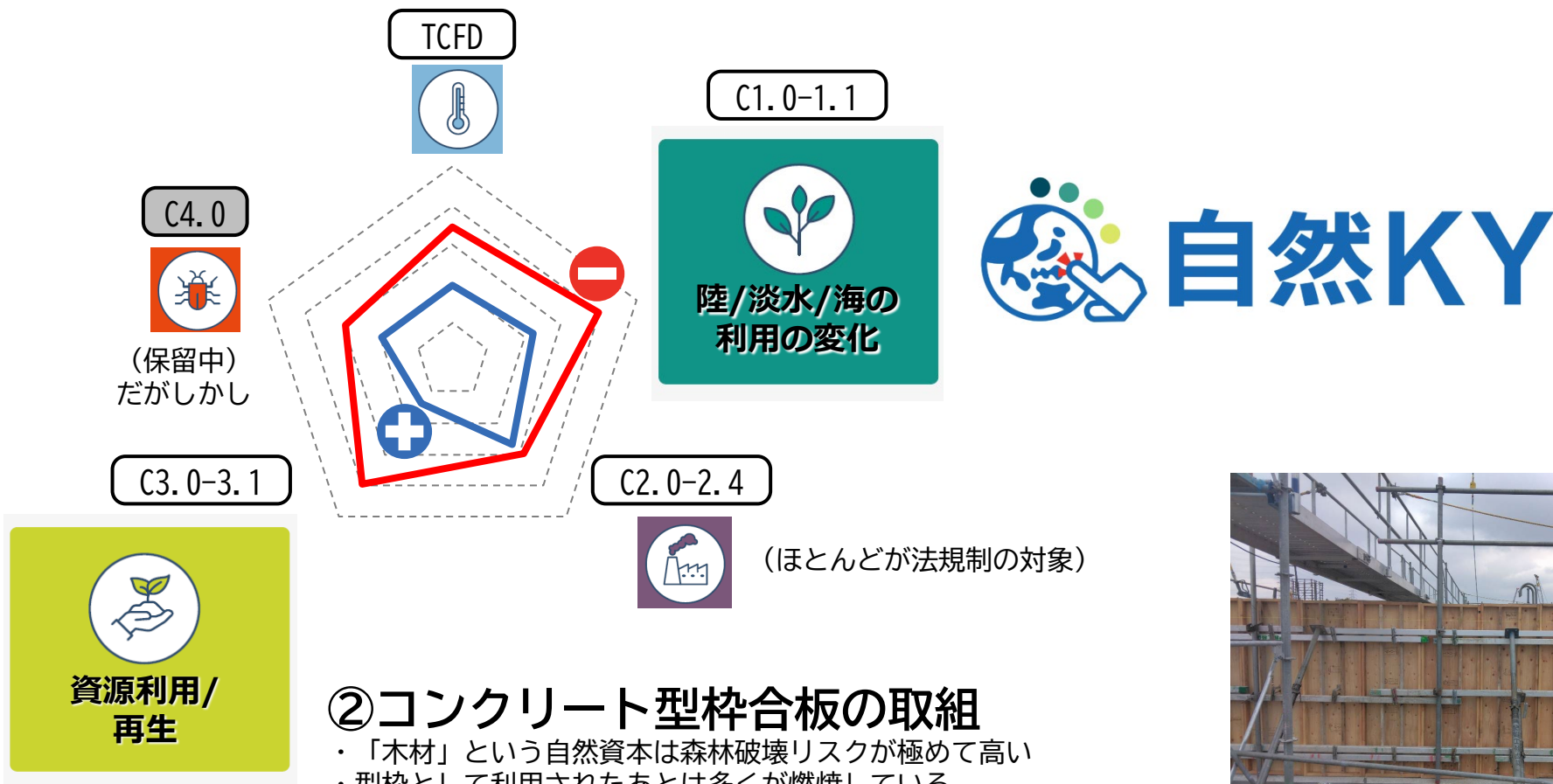
同じ業界では構造（図形の形）は似る
同じ指標で比較することで努力が伺える

③業種間の比較



社会として注力する分野の特定
労力や資金分配の最適化

当社の『健康診断』と取組（注力ポイント）



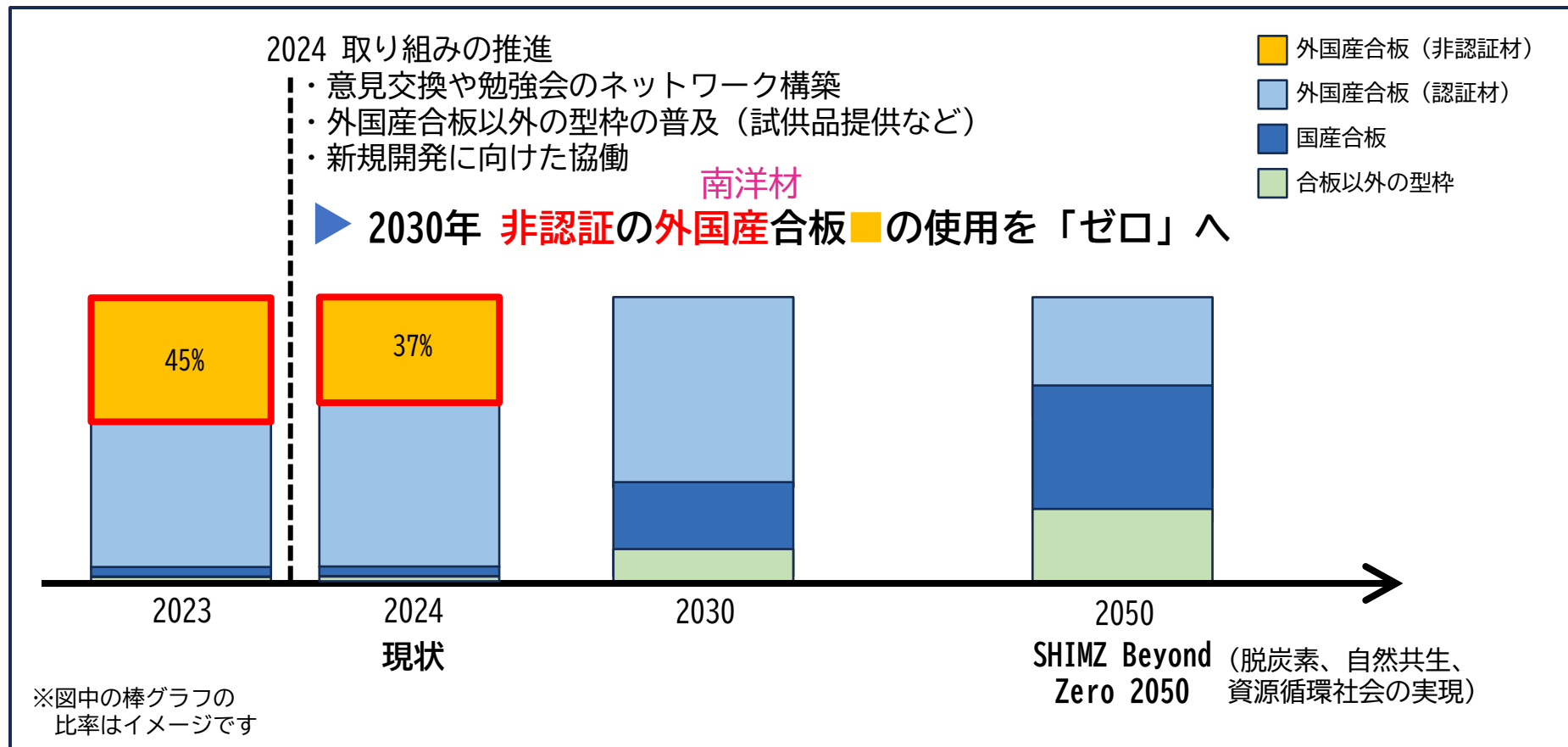
②コンクリート型枠合板の取組

- ・「木材」という自然資本は森林破壊リスクが極めて高い
- ・型枠として利用されたあとは多くが燃焼している

→認証材の透明性と生産地情報がリスク回避と事業の持続性に貢献

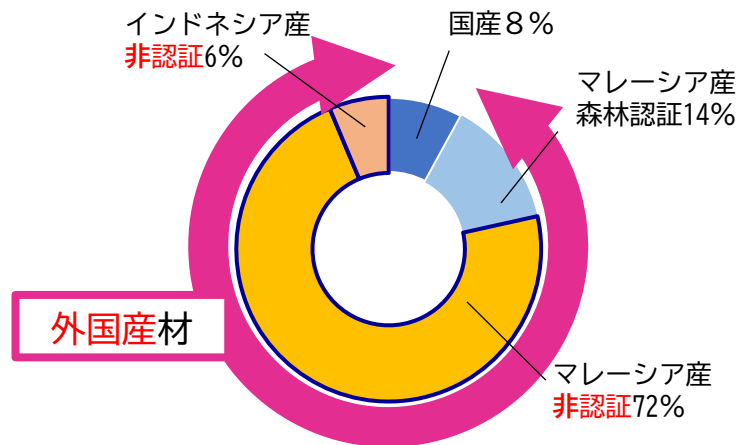


3. コンクリート型枠合板の取組



日本のコンクリート型枠合板をめぐる状況

国内の型枠合板状況(2023年推定)



外国産が9割以上で非認証材が8割
産地はマレーシア・サワラク州に偏在

サワラク州の森林状況

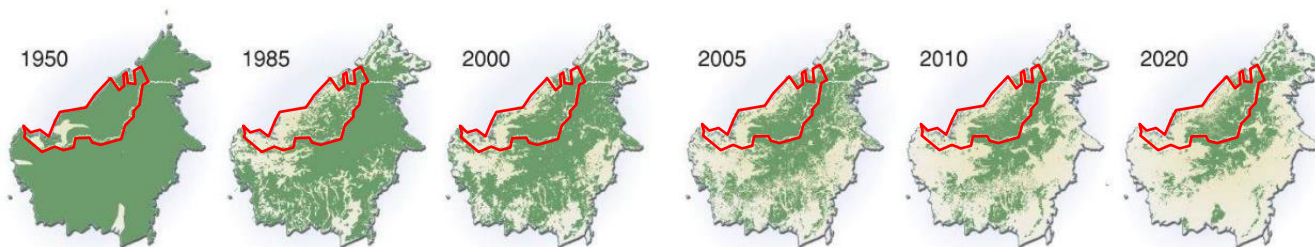
- ・天然林の伐採後、再植林なし
- ・森林資源量が枯渇
- ・合板輸出先は長期間日本が6割以上

森林に関する規制等の強化

- ・グラスゴー宣言（2021年、各国首脳）
- ・EUDR（欧州森林破壊防止規則）
→2025年～森林破壊フリー義務化
- ・TNFD（自然関連財務情報開示）
→投資家向け情報開示

・資源量が低下
・国際的な規制が強化傾向
→調達可能数量大幅減の恐れ

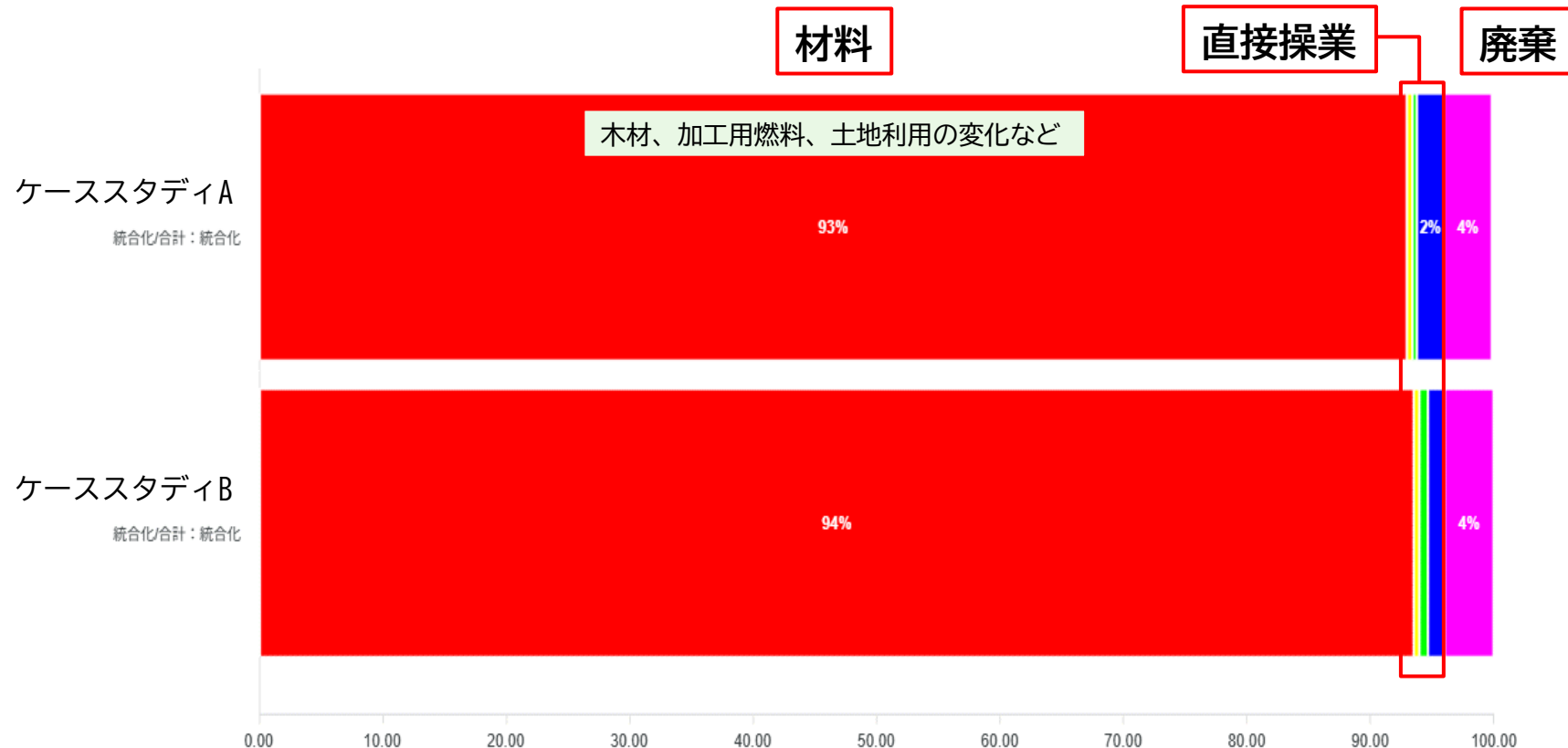
・一つの地域に大きく依存
・代替製品の利用も少数
→当社工事の継続に影響



ボルネオ島の森林被覆面積の推移（出店：WWF）赤枠内がサラワク州

進む統合的評価手法の開発

人間健康、生態系多様性、一次生産（光合成）、社会資産への影響を統合的に評価



「SHIMZ Beyond Zero 2050」の実現に向け ロードマップを策定

2025年9月

- 建材調達においては、**2030年までに**コンクリート型枠の使用材料から**外国産非認証材をゼロ**に、認証材・国産材への完全移行を実現するなど、持続可能な材料調達を実践します。

コンクリート型枠による「SHIMZ Beyond Zero 2050」への貢献

- 施工時の再エネ由来電力の導入
- 焼却処分→建材としてのリユースによる炭素固定

- 入口側の循環利用率を管理指標に設定し天然資源投入量を最大限抑制
- 「資源生産性」を最大化する好適な建材

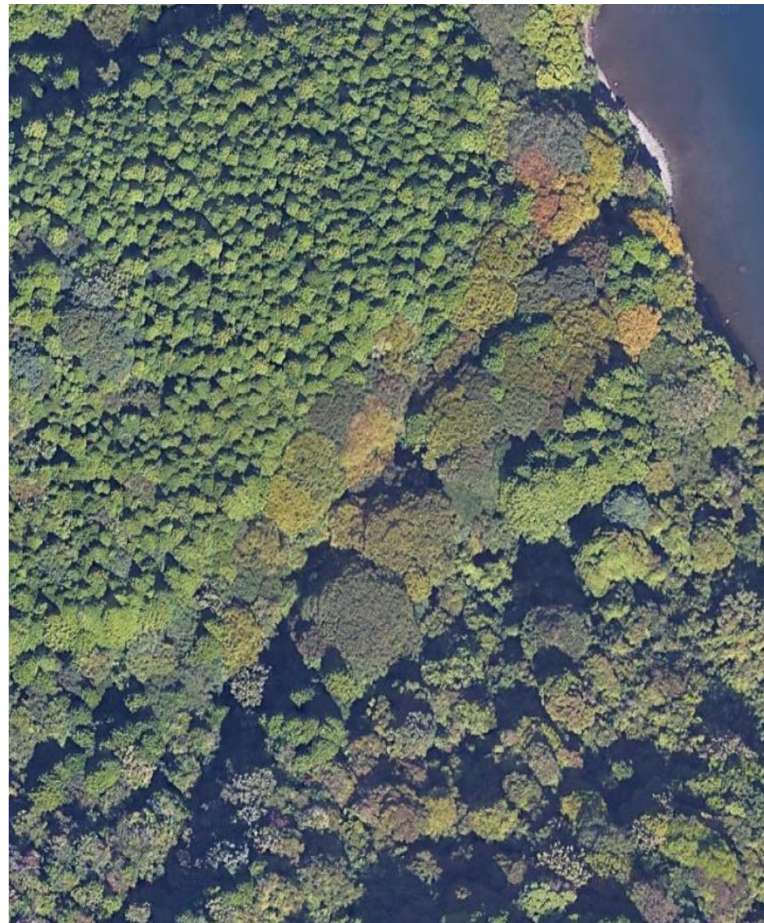
- 森林資源の持続可能な利用
- 認証材の積極利用による植林地生態系への良効果



→コンクリート型枠での取り組みが建設業における行動変容の好事例になってほしい

4. まとめ

今後は、これまで漠然としていた自然というものの評価や理解が深まるだろう

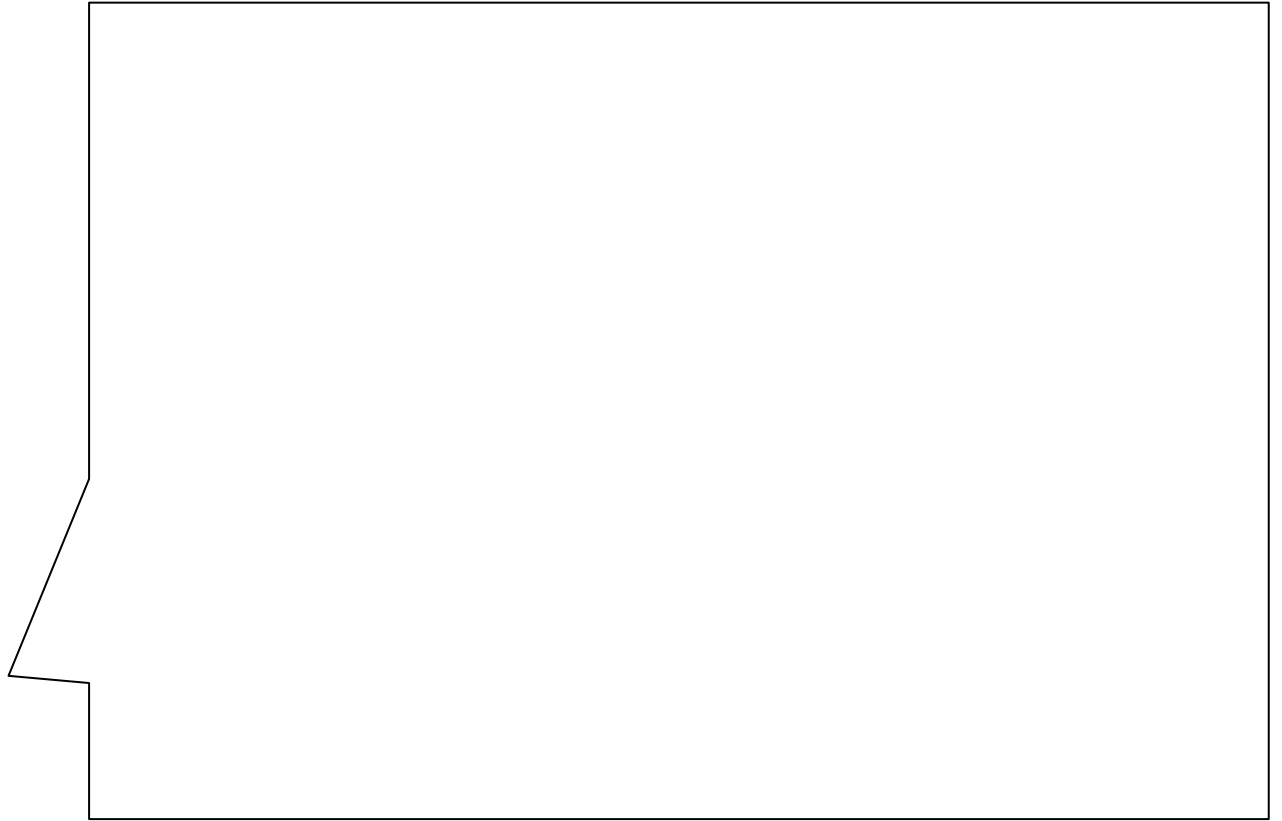


木材を使うことって、どうなの？ もしかして木材にもいろいろあるんじゃない？

逆風



生成AIによる



子どもたちに誇れるしごとを。